

北見市における景気動向調査報告書

< 第 II 四 半 期 >

北 見 商 工 会 議 所

I. 調 査 要 領

1. 調査時点及び調査対象期間

(1) 調査時点 平成17年10月14日

(2) 調査対象期間 平成17年7月～9月期実績および平成17年10月～12月期見通しについて調査した。

2. 調査対象

北見市に所在する企業を対象に、製造業、建設業、卸売業、小売業、サービス業の5業種150社を往復ハガキにより調査した。

3. 回収状況

業種 \ 企業数	対象企業数	回答企業数	回答率
製造業	30社	17社	56.7%
建設業	30社	23社	76.7%
卸売業	30社	23社	76.7%
小売業	35社	16社	45.7%
サービス業	25社	15社	60.0%
合計	150社	94社	62.7%

注) 本調査結果の中で、D・I値とある記号は、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)で好転企業割合から悪化企業割合を差し引いた値を示す

II . 概 況

《 全 体 の 動 き 》

平成17年度第Ⅱ四半期<7月～9月>の北見市における業況は、前年比で「好転企業」11.7、「悪化企業」56.4、「好転」から「悪化」を差し引いたD・I値は△44.7となっています。

このD・I値を前期調査<17年度第Ⅰ四半期>と比較してみると前回△40.8→今回△44.7と3.9ポイント悪化、「好転企業」が1.4ポイント増加、「悪化企業」が5.3ポイント増加しており、前期調査との比較では不変が減少し好転・悪化ともに増加しているものの若干悪化傾向を強く示しています。前年同期比(△36.2)との比較でも8.5ポイントと悪化しており、景気低迷の中依然として暗い経済環境を示しています。

今回の業況を業種別で見ると製造業D・I値△23.5、建設業D・I値△69.5、卸売業D・I値△34.8、小売業D・I値△56.1、サービス業D・I値△33.3となっており、前年同期調査と比較すると製造業と卸売業と特にサービス業では大幅な改善が見られ、小売業は8.4ポイントの悪化、建設業については50.4ポイントの大幅な悪化傾向を示しており、一部改善傾向にあるものの全体的には依然として厳しい状況にあります。

また、来期の見通しを全業種で見ると「好転企業」9.6%「悪化企業」51.1%でD・I値△41.5と、前年同期見通し(△40.0)に比べ1.5ポイント悪化しており、依然として先の見えない来期見通しとなっています。

《 業 種 別 の 動 き 》

1) 製 造 業

生 産 高

前年比で「増加企業」11.8%、「減少企業」35.3%、D・I値△23.5と前年同期に比べ5.2ポイントの改善、前期調査との比較では4.8ポイント悪化しており、前期調査で大幅な回復傾向にあったものの再び悪化、数値は低いものの厳しい状況を示しています。

採 算

前年比で「好転企業」5.8%、「悪化企業」47.1%、D・I値△41.3と前年同期に比べ11.1ポイントの改善、前期調査との比較では5.9ポイントの悪化、生産高同様前期調査の回復傾向から再び悪化、予断を許さない状況となっています。

来期見通し

業況D・I値△29.4、生産高D・I値△35.3、資金繰りD・I値△29.4と、前年同期に比べ全てのD・I値が回復傾向を示しており、特に業況D・I値は22.9、生産高D・I値は17.1と高い数値を示しています。また、前期調査との比較では業況D・I値はほぼ同じ、他のD・I値はともに約12ポイントの悪化を示しており、前回調査では回復の兆しがあったものの再び厳しい来期見通しとなっ

います。

2) 建設業

完成工事高

前年比で「増加企業」13.6%、「減少企業」77.3%、D・I値△63.7と前年同期に比べ39.9ポイントの大幅な悪化傾向を示しているが、前期調査との比較でも20.1ポイントの大幅な悪化傾向を示しており、長引く景気低迷の中引き続き暗い状況となっています。

採算

前年比で「好転企業」0.0%、「悪化企業」78.3% D・I値△78.3と前年同期に比べて40.3ポイントの大幅な悪化傾向を示しており、前期調査との比較でも17.4ポイントの悪化傾向を示しており、依然として大変厳しい状況となっています。

来期見通し

業況D・I値△69.6、完成工事高D・I値△56.5、資金繰りD・I値△47.8と前年同期と比べすべて悪化傾向を示し、特に業況D・I値は26.8ポイントと高い数値を示しています。前期調査との比較でも同様ですべて悪化傾向であり、引き続き先の見えない大変厳しい来期見通しとなっています。

3) 卸売業

売上高

前年比で「増加企業」26.1%、「減少企業」43.5%、D・I値△17.4と前年同期と比べ15.9ポイントの大幅な改善傾向を示しており、また、前期調査との比較でも14.4ポイントの改善傾向を示しており、順調な回復傾向がうかがえます。

採算

前年比で「好転企業」17.4%、「悪化企業」34.8%、D・I値△17.4と前年同期に比べ15.9ポイントの大幅な改善傾向を示しています。また、前期調査との比較でも14.4ポイントの改善傾向を示しており、前期調査では悪化傾向の数値が高かったものの、ここにきて回復傾向を示しており、明るさが見える状況となっています。

来期見通し

業況D・I値△34.8、売上高D・I値△34.7、資金繰りD・I値8.7と前年同期に比べ業況D・I値並びに売上高D・I値はほぼ同じであるが、資金繰りD・I値がプラスの数値を示しています。前期調査との比較でもすべて大幅な回復傾向を示しており、資金繰りD・I値については22.3ポイントという高い数値であり、明るさの見える来期見通しとなっています。

4) 小売業

売上高

前年比で「増加企業」12.5%「減少企業」50.0%、D・I値△37.5と前年同期に比べ0.7ポイントと僅かだが改善されています。しかし、前期調査との比較は1.8ポイントの悪化傾向を示しており、数値としては低いが厳しい状況となっています。

採算

前年比で「好転企業」6.3%「悪化企業」68.7%、D・I値△62.4と前年同期に比べ10.0ポイントの悪化となっており、前期調査との比較でも31.5ポイントの大幅な悪化傾向を示しており、依然として暗く厳しい経済環境となっています。

来期見通し

業況D・I値△18.7、売上高D・I値△37.4、資金繰りD・I値△18.7と前年同期と比べて売上高D・I値は悪化しているものの業況D・I値並びに資金繰りD・I値は大幅な改善傾向を示しており、前期調査との比較でもすべてのD・I値は大幅な改善傾向で特に業況D・I値については38.5ポイントと高い数値を示しており、採算に厳しさはあるものの明るい来期見通しとなっています。

5) サービス業

売上高

前年比で「増加企業」26.7%、「減少企業」60.0%、D・I値△33.3と前年同期に比べ21.7ポイントと大幅な改善傾向を示しており、前期調査との比較では33.4ポイントの大幅な改善傾向であり、数値はまだ高いもののここに来て明るい兆しが見える経済環境となってきています。

採算

前年比で「好転企業」6.7%、「悪化企業」53.3%、D・I値△46.6と前年同期に比べ8.4ポイントの改善傾向を示しており、前期調査との比較でも11.8ポイントと大幅に改善しており、明るい兆しが見える経済環境となっております。

来期見通し

業況D・I値△46.6、売上高D・I値△53.3、資金繰りD・I値△53.3と前年同期に比べ14.5ポイントの大幅な悪化傾向を示しています。前期調査との比較でも11.6ポイントの悪化傾向を示しており、前期調査で回復傾向にあったもののここに来て再び厳しい来期見通しをなっております。

業 種 別 経 営 上 の 問 題 点

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
製 造 業	同業者間の競合	得意先減少	諸経費増	人件費増	人材不足
建 設 業	同業者間の競合	得意先減少	諸経費増	人材不足	人件費増
卸 売 業	同業者間の競合	諸経費増	得意先減少	人材不足	売掛金回収難
小 売 業	同業者間の競合	得意先減少	人材不足	諸経費増	人件費増
サービス業	同業者間の競合	諸経費増	得意先減少	人件費増	人材不足
合 計	同業者間の競合	得意先減少	諸経費増	人材不足	人件費増

※ 問題点は、各業種とも3つ選択。